

あいのままでいられる保健室



平成28年4月に開校した東山総合支援学校の保健室を訪問しました。

校門を入ったすぐ右手には『カフェしゅうどう』が併設され、生徒たちが実際の接客応対を通して“働く”ための演習を行っています。観光客や近隣住民の憩いの場ともなっているそうです。

手作りのリースが出迎えてくれました



保健室には二人の養護教諭がおられます。お一人は京都市で初めての男性養護教諭です。

男性と女性の養護教諭の存在は、教職員・保護者・生徒に当たり前の感覚として受け入れられており、互いの良さを最大限に活かした保健室を運営されています。

保健室の壁面のLGBTについての掲示



生徒の目をひくような工夫が凝らされています。

関連した書籍も手に取れる場所に置かれています。



衝立で仕切られたプライベートな空間

どんな相談でも親身に聞いてもらえます。



握っていると心が落ち着くカラーボール

ストレスボールとして大活躍します。一つ一つ硬さが異なり、生徒たちは自分のお気に入りを見つけます。

入口に飾られた生徒たちの作品



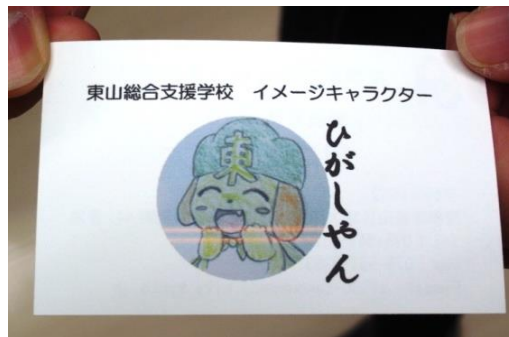
生徒が折った作品を糸で繋げたツリーの装飾や、生徒が描いた絵が目立つ場所に掲示されています。

手作りのリースが出迎えてくれました

養護教諭の『あなたを大切に思っているよ』というメッセージが溢れています。



生徒会のイメージキャラクター『ひがしやん』



生徒会で募集しました。生徒の描いたイラストが名刺にも印刷されています。

便利なシャワー付き足洗い場



脇に挟まなくても検温できる体温計

パルスオキシメーターも備えられています



セロクターに入れられたメディカルテープ



机の上に置かれたアロマポットオイル等は使わず、加湿器代わりに使用されています。

『ありのままでいられる保健室』では、二人の養護教諭が生徒たちを尊重し、あたたかく包んでおられます。そこは、とても心地よく、誰もが安心して利用できる保健室でした。

元々、小学校だった時のプール跡地を現在では、地域の方と共に活動する畑として活用しています。

